イデックスオイルレポート　~For a week~

㈱新出光

【概況】

●31日、ロイター通信はこの日午後、関係者の話として、トランプ米大統領が、メキシコ、カナダからの輸入品に対する関税の発動日を従来に掲げていた2月1日ではなく、3月1日にする見通しだと報道。しかしその後、レビット米大統領報道官は会見で、メキシコとカナダからの輸入品に25%、中国に10%の関税を2月1日に課すと改めて表明し、3月1日に発動するとの報道は「誤りだ」と否定した。これを受けて、関税発動がインフレ再燃につながるとの懸念から、外国為替市場で対ユーロでドル買いが加速。ドル建てで取引される商品の割高感につながり、原油相場は圧迫され72.53ドルへ反落した。

●3日、トランプ米大統領は1日、国境を接するカナダ、メキシコからの輸入品に25%の関税を課すよう命じた。原油などカナダからのエネルギー関連製品は、税率を10%に軽減した。発効は4日。これに対し、カナダは報復関税の実施を表明した。貿易戦争になれば、エネルギー供給が不安定化するとの懸念を背景に原油が買われ相場は73.16ドルへ反発した。

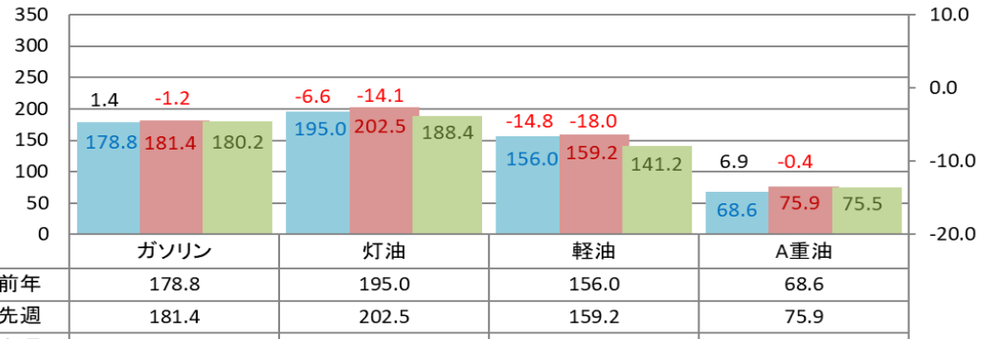
●4日、トランプ米政権は4日、合成麻薬フェンタニルの米国への流入が続いているとして、中国からの輸入品に10%の追加関税を発動。中国政府は対抗措置として、報復関税を10日に発動すると発表した。中国は米国から輸入される石炭と天然ガスに15%、原油などには10%の追加関税を課す。米高官らは、両国首脳が「近く」電話協議すると言及したが具体的な予定は明らかにされておらず、米中の貿易摩擦の激化を招くとの警戒感が再燃した。エネルギー需要鈍化懸念も広がる中、相場は72.7ドルへ反落した。

●5日、トランプ米大統領は、敵対するイランへの「最大限の圧力」政策を復活させると発表。同氏は政権1期目、イランの核開発阻止を目指して制裁を強化し、同国産原油輸出をほぼ完全に停止させた時期があり、市場では供給不安が台頭した。しかし、米中間の貿易摩擦再燃への警戒感は根強く、相場は71.03ドルへ続落した。

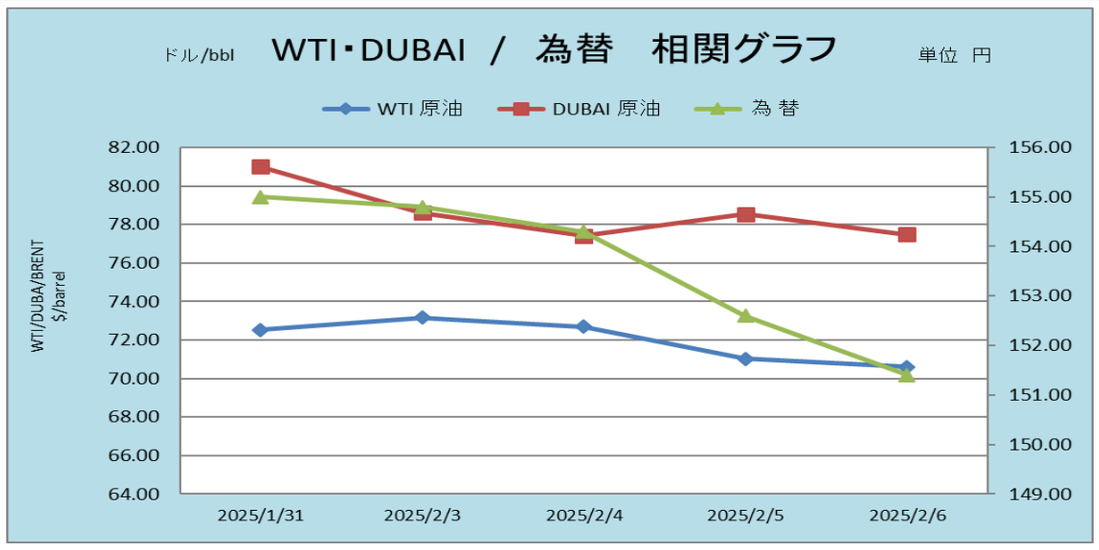
●6日、サウジアラビア国営石油会社サウジアラムコは5日、主要油種アラブ・ライト原油について、3月のアジア向け公式販売価格（OSP）を大きく引き上げた。これを背景に、朝方の相場では買いが先行した。また、米財務省は6日、中国向けに年間数百万バレルのイラン産原油の輸送を支援する一部の個人やタンカーに対し、新たな制裁を科すと公表し相場は70.61ドルへ続落した。

2月7日	16:00現在	WTI原油	71.01ドル	為替　1ドル	152.30円

国内石油製品在庫　2月1日時点　単位万KL



	ガソリン	灯油	軽油	A重油
前年	178.8	195.0	156.0	68.6
先週	181.4	202.5	159.2	75.9
今週	180.2	188.4	141.2	75.5
前年比	1.4	-6.6	-14.8	6.9
前週比	-1.2	-14.1	-18.0	-0.4



	次回元売変動予測 2/13日～	元売変動予測
ガソリン	→	+0.4～+0.9
灯　油	→	+0.4～+0.9
軽　油	→	+0.4～+0.9
A 重 油	→	+0.4～+0.9
L S A	→	+0.4～+0.9

※原油コスト「-3.0円～-3.5円」
※激変緩和補助金「-13.5円」 前週比+3.9円
※現時点での予測です。

【製品卸価格】

≪今週≫今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「-2.5円」、補助金は、「-17.4円・0%」、都合「+0.6円」の改定となった。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの3日時点の小売価格平均は184.6円となっている。

≪2月13日以降≫次回の元売り改定は、原油コストは「-3.0円～-3.5円」、激変緩和補助金は「-13.5円・0%」の見込みで、都合「+0.4円～+0.9円」の改定予測となっている。

【次世代エネルギー】　＜ 住友電工、柏崎市の新電力にレドックスフロー電池を納入 ＞

住友電気工業は12月11日、新潟県柏崎市が出資する地域新電力である柏崎あい・あーるエナジー（柏崎市）にレドックスフロー型の蓄電池システムを納入し、さらに同新電力から新規案件を受注したと発表した。

今回納品したレドックスフロー電池は、柏崎市自然環境浄化センターの敷地内に設置され、9月30日に竣工した。出力1MW、容量8MWh（出力1MW×8時間）で、系統網に直接接続する。稼働後は、柏崎あい・あーるエナジーが運用する。小売電気事業者としての需給バランシング改善に用いる定置型蓄電池として運用する。

また、余剰が出た場合は電力市場を活用した裁定取引（アービトラージ）も行う予定。新規受注では、北条南小学校跡地に容量8MWhのレドックスフロー電池を設置し、竣工は2025年春の予定。敷地内にある太陽光発電設備が発電した電力を充放電する太陽光併設型蓄電池として運用し、需給バランシング改善や裁定取引での利用も検討する。

レドックスフロー電池は、電解液中の金属イオンの酸化還元反応を利用して充放電する。充放電サイクルが劣化要因にならずシステム耐久性は20年以上、電解液は半永久的に使用でき、火災の可能性が低いといった特徴を持つという。今回の竣工により、住友電工の国内外におけるレドックスフロー電池の導入実績は出力総計50MW、容量総計176MWhになる。

[出典]日経BP　https://project.nikkeibp.co.jp/ms/atcl/19/news/00001/04683/?ST=msb

© 2025 SHIN-IDEMITSU Co.,Ltd.ALL rights reserved.